

第3回しむかっふ村 メープル収穫祭



▲石窯でじっくり焼かれ、メープルシロップがかけられた特製ピザ。

暖かな春の日差しの中、開催された第3回しむかっふ村メープル収穫祭。3回目の開催にしてようやく天気にも恵まれ、会場は村民と観光客でにぎわい、収穫したメープルシロップの『甘み』を楽しみました。

会場では、占冠村産メープルシロップが使用されたピザ、ソフトクリーム、ヨーグルト、たこ焼き、スムージー、ホットミルク、ホットジャガ、ビーフシチュー、アップルパイ、フレンチトーストなどの数多くの料理が提供されていました。担当者も会場で甘い匂いにつられ、メープルピザを購入。シロップの甘みとチーズの相性が抜群でした。

午後1時から、メープルトワイをいただくためにお客様の行列ができました。メープルトワイとは、煮詰めたメープルシロップを綺麗な雪の上にとらし、冷えて固まる前に水あめ状になったものを棒で巻き取って食べるカナ



▲村民限定販売されたメープルシロップ。村内商店でも購入可能。

メープルシロップづくりのきっかけは公民館活動から。『トベニワツカ』が発売されてから今年で3年目を迎え、しむかっふ・村づくり寄附金（ふるさと納税）の返礼品や、JR北海道特急で車内販売のアイスクリームへの活用など、村外での認知度も高まってきています。収穫祭会場では村民限定販売も行われており、地域に愛される特産品の一つとして育っていたかたいですね。

▶メープルトワイを楽しむご家族。上手にできた！



ダの伝統的なお菓子です。カナダの春の風物詩であり、メープルシロップの収穫時には子どもも大人も楽しみにしている伝統行事の一つ。会場では、村のメープルシロップの製造に大きく関わっていたいているギヤニオン・マークさんより無料で提供され、子どもも大人も関係なくメープルシロップの甘さを楽しみました。

メープル収穫祭では、メープルシロップ料理の提供だけでなく、占冠村地域おこし協力隊による体験ブース『カエデの木でコースター作り』『カエデの枝と羊毛クラフトで作る風に揺れるモビール作り』

**メープルシロップ
だけじゃない！
地域おこし協力
隊も大活躍！**



午後3時から、村のメープルシロップを使用したメープルバームクーヘンが札幌市の洋菓子店『ドルチェヴィータ』様より無料で提供されました。こちらもメープルトワイと同様に行列ができました。

『カエデの刺繍入り鹿革キーホルダー作り』が設置されていました。せっかくの機会なので、広報担当者もチャレンジしました！



▶製作体験に夢中になる子どもたち。

バーニングペンで好きな絵を描く！

あらかじめ形取られたカエデの木に好きな絵を描き、バーニングペンでなぞっていくコースター作り。広報担当者が描いた絵は、村ホームページで皆さんを迎えてくれる可愛いイラストです。村ホームページのトップページ下部にはモチーフとなったキャラクターがいますので、興味のある方は是非ご覧になってみてください。

さい。



コースター作りの講師を務めたのは、占冠村地域おこし協力隊の相馬功一さん。占冠村に移住して1年が経過し、占冠産の木を使ったスケートボードや雪板の製作や、林業従事者になるための現場研修などの活動をしています。気さくなキャラクターの持主なので、コースター作りを体験していたお子様とも簡単に打ち解けていました。



▶占冠村地域おこし協力隊の相馬功一さん

好きな羊毛クラフトを選んでつくろう！

続いて体験したのは、風に揺れるモビール作りです。可愛い色や形の羊毛クラフトを選び、糸で縫い合わせたものをカエデの枝に取り付けます。あまり手先が器用ではない広報担当者でも、有光隊員の指導のおかげで安心して製作することができました。モビール作りの講師を務めたのは、占冠村地域おこし協力隊の有光志穂さん。昨年3月に移住し、現在は前職での経験を活かして羊毛加工商品や加工体験を通じた地域おこしを目指しています。村内の学校や高齢者クラブなどでも羊毛を使用したクラフト教室を開催しており、今後は村内外で羊毛を使用したクラフト体験や羊毛加工商品を広め、体験メニューや商品の企画をしていきたいとのこと。当日は、羊の被り物で登場。『勇氣を出して被ってます！』とお茶目な一面を見ることができました。



▶占冠村地域おこし協力隊の有光志穂さん

村内でなめした鹿革でつくるキーホルダー

村内でなめした鹿革を好みの色に染め、キーホルダーを製作するこちらの体験ブースでは、占冠村地域おこし協力隊の佐々木絢子さんが講師を務めました。



残念ながら広報担当者は時間の都合上体験することではできませんでしたが、会場では予約待ちが出るほどの人気でした。佐々木さんは、エゾシカ革をはじめとしたエゾシカ文化の普及をめざして活動しています。『5月から皮なめし体験とものづくりを主体としたワークショップを実施しています。製革は非常に手間と時間がかかりますが、それ以上に面白くやりがいがあります。エゾシカが多く生息する村ですから、彼らを活かしつつ食肉やその他の副産物を資源化できるよう、今後も地道に頑張ってまいります。』と今後の抱負を語ってくれました。



▶占冠村地域おこし協力隊の佐々木絢子さん